

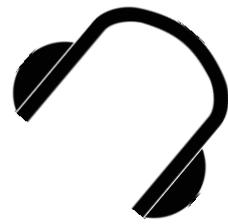
F

A

B



abcdefghijklmnopqrstuvwxyz...



E

English

C

D

G

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 8-C

9 マコト (Makoto) が、音楽レッスン (Music Lesson) のチラシをジュリア (Julia) に見せています。【チラシ】の内容と、2人の【会話文】を読んで、(1) ~ (4) の質問の答えとして最も適切なものを、ア~エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

【チラシ】

Music Lessons	
Piano Lessons (private*) Wednesday and Friday	(1) 【チラシ】の内容について、正しく述べているものはどれですか。 ア ギターのレッスンは週5日ある イ ピアノのレッスンは週2日ある ウ ギターのレッスンは土曜日と日曜日にはない エ ピアノのレッスンは水曜日にはない
Guitar Lessons (5 - 10 people) Monday, Tuesday and Saturday	
Morning class: 10:00 - 11:30 Afternoon class: 15:30 - 17:00 Evening class: 18:00 - 19:30	

○ 調査問題の趣旨・内容

「素材と会話文を読んで、重要な内容やことがらを理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 英語の文章を読んで、チラシの内容についてたずねる質問に対する答えを選ぶ。

【作成の趣旨】 この問題はチラシに書いてある情報の中から、必要な情報を読み取ることができるかをみる問題である。この問題のポイントは、曜日を表す英語を正しく身に付けておくとともに、必要な情報を得るための読み取りを正確に行うことが求められる。

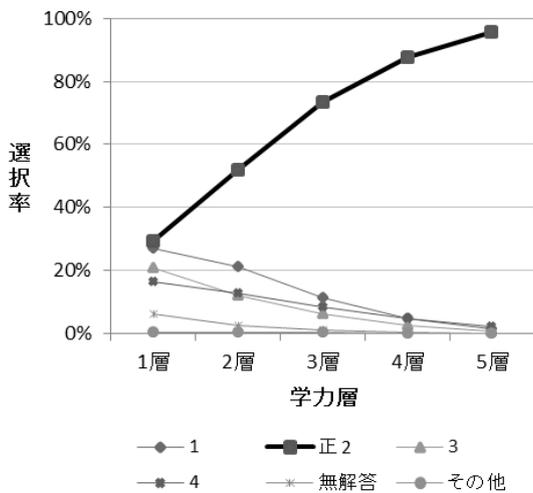
○ 誤答分析

出題のねらい	解答類型	1 アを選択	②正答 イを選択	3 ウを選択	4 エを選択	無解答	その他
素材と会話文を読んで、重要な内容やことがらを理解できる。		12.7%	68.8%	8.0%	8.6%	1.9%	0.2%

選択肢の日本語の英訳が、チラシの中にそのまま表現されているわけではないので、正答を導くためには読み取った情報を整理し、解釈する必要がある。誤答の選択率としてはアを選択した生徒が多い。キーワードと数字の情報について、その意味を正しく読み取らず、短絡的に結び付けて解答していると考えられる。

選択肢	選択肢の分析
ア ギターのレッスンは週5日ある	guitar と Guitar Lessons (5-10 people) の5が「5週」ではなく、人数を表すことが理解できずに解答したと考えられる。
イ ピアノのレッスンは週2日ある	正答
ウ ギターのレッスンは土曜日と日曜日にはない	曜日を表す語について、つづりと意味を正確に結び付けて理解できていない可能性がある。
エ ピアノのレッスンは水曜日にはない	

○ G - P 分析



- 学力層が上がるほど、正答の選択率が高くなっているが、いずれの学力層においても、正答の選択率が他の解答類型の選択率を上回っている。
- 無解答率は、全ての学力層において低い。
- 1層～2層では、誤答として類型1の選択率が高く、数字の表している情報を正しく把握できていないと考えられる。
- 3層～4層では、誤答類型の違いによる差は見られない。

○ 指導上の改善ポイント

英文を読むといっても、その目的は様々である。例えば、手紙やチラシ、ポスター等であれば、自分に向けられたメッセージを読み取らせることなどが目的となる。また、物語文であれば、具体的な場面、状況、登場人物の気持ちや段落ごとの構成などを捉えながら話の筋を追わせることなどが目的となる。

いわゆる翻訳のように、英文和訳を目的に英文を読むことは、実際の言語の使用場面においてはあまり多いとは考えられない。英語学習の初期段階では、英文の読み取り方について、ある程度の指導は必要となるが、**普段の授業においては、英文の目的に合わせた読み取りを行わせるよう教師が意識するとともに、いわゆる英文和訳が目的とならないよう留意したい。**また、**多様な英文に数多く触れさせ、目的を持って読むことに慣れさせる**ようにすることが大切である。

必要な情報を得ることを目的として読ませる指導

英文を読ませる前に課題を明示することで、目的を持って主体的に読ませるようにする。その上で、様々な形式の英文に触れながら、リーディングの経験を繰り返し積むことで、語彙や文法などについても定着が期待できる。

<指導例>

(1) 帯活動など短時間で継続的に行う活動 (Reading Time 等)

内容に関する質問を先に示し、様々な形式の英文から、必要な情報を短時間で読み取る練習を継続的に行う。

例：日記、手紙、短いエピソード、ポスター、新聞の見出し、取扱説明書、観光地の英文パンフレット (外部検定試験の過去問題、インターネット上の広告や案内、卒業生の作品等から)

(2) プロジェクト活動における情報収集を目的とした活動

目的に応じた情報を取捨選択して活用する機会を授業の中に設ける。リーディング活動やリスニング活動で得た情報から必要な情報を読み取らせ、読み取らせた情報を整理し、整理した情報をもとにスピーキングやライティングによる表現活動につなげていく。

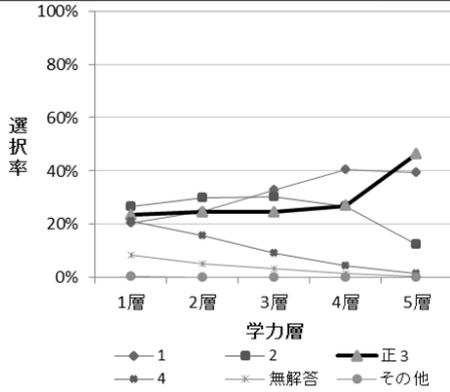
【プロジェクト活動の例】



生徒の主体的な学びにつながるよう、ペアやグループなど学習形態を工夫したり、複数の資料を用意して、ジグソー法などで行わせたりすることも効果的である。



○ G - P 分析



- 正答率が 29.7%の問題である。
- 1層では、選択肢の1～4を選んだ生徒が 20%台であり、どの選択肢を選んだらよいか迷った生徒が多いと考えられる。
- 1層から4層の生徒の正答率は 20%台であるのに対し、5層の生徒の正答率は 46%である。このことから、学力により正答率の違いが著しい問題である。
- 1層から4層までのどの層においても類型1を選ぶ生徒が多い。文章全体の流れを捉えずに、疑問詞だけを見て解答を選んでいる生徒が多いと考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

誤答としてもっとも多かったのは、Where does he come from?であった。

疑問詞への理解はあるものの、英文の前後の流れを意識することや、誰への質問なのか「主語」を理解することに課題がある。**長文問題の中の登場人物や場面を想定し、まとまりのある英文を理解して読む**ことができよう改善を図る。

長文問題を「読んで終わり」にしない指導

一斉指導で英文を「読む」だけで終わらせるのではなく、生徒の実態に合わせて段階的に、学習形態などを工夫しながら英語の長文を扱う授業の改善を行う。

段階	学習形態等	学習内容	指導の工夫									
1	個人	○ 時間を決めて、英文を読ませる。	● 読みとるポイントを示す。									
2	教師と生徒 ↓ 生徒と生徒	○ 日本語で、英文の内容の確認を行う。 「教師→生徒」で終わりにせず、生徒同士が「対話」を通して学びを深める工夫をする。	● 「いつ」「どこで」「誰が」などを尋ねながら、英文の流れを確認していく。 ● 最初は教師から生徒へ、 慣れてきたら生徒同士で相互に質問させる。									
3	学習形態 小グループ ↓ 個人 活動内容 ワークシートの穴埋め ↓ 英語でメモ	○ 登場人物や場면을把握し、内容を整理させる。 (例) ワークシートを使って整理させる。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>楽器</th> <th>レッスン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジュリア</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マコト</td> <td>ギター</td> <td>土曜 午前</td> </tr> </tbody> </table> (例) 英語でメモを取らせる。 Julia: No lessons. Makoto: guitar/ Sat, Moring ○ 最終的には生徒が自分でメモを作成できることを目指す。 小グループの「学び合い」の活動から「個」の理解につなげられるよう指導の工夫を図る。		楽器	レッスン	ジュリア			マコト	ギター	土曜 午前	● イラストや表を用いて「視覚的」に内容を把握させる、虫食いのワークシートで穴埋めをさせるなど、 英文を整理しながらまとめさせる。 ● 生徒の実態に合わせ、段階を追って、英文の内容を、捉えさせるようにする。 ● 一部の生徒だけでなく、全ての生徒が「理解できる」ようにするため、①全員で取り組ませるようなタスクを与える、②習熟度に応じた複数のワークシートを用意する、③ペア、グループ等の学習形態を取り入れるなどの工夫をする。
	楽器	レッスン										
ジュリア												
マコト	ギター	土曜 午前										
4	個人	○ 読んだ長文についてのT-FクイズやQ-A ⇒ 生徒の内容理解の見取を行う。	● 答えについて、生徒に理由や根拠を考えさせる。									
5	個人 小グループ	○ 英語（あるいは日本語）で要約を作成させる。	● キーワードやイラストを示しながら進めていくのもよい。									

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 10-B

【リスニング問題】

2 これから放送される (1) ~ (4) の英語の話しかけを聞いて、それに対する
答えとして最も適切なものを下のア~エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

(3) <放課後、男の子が友達に>

- ア Sorry, I didn't bring mine.
- イ Sorry, I have to study.
- ウ No, I didn't see that.
- エ No, I don't like sports.

放送文: Do you want to see a movie with me tomorrow?

○ 調査問題の趣旨・内容

「会話文の応答として適切なものを選択する力」が身に付いているかどうかをみる問題

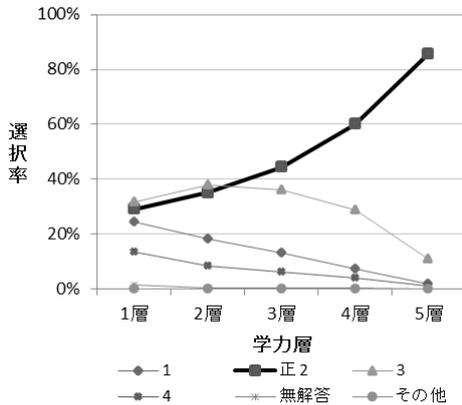
【問題内容】 提案に対して、適切な答えを選択する。

【作成の趣旨】 この問題は、相手の提案を聞いて、それに対する答えとして適切なものを選択することができるかどうかをみる問題である。この問題のポイントは、映画に誘われているが、理由があつていけないということ相手に伝え、丁寧に断る点である。単に、Yes や No で答えるのではなく、質問に正対した理由を伝えた上で、断ることができる力が求められる。

○ 誤答分析

出題のねらい	解答類型	1 アを選択	2 正答 イを選択	3 ウを選択	4 エを選択	無解答	その他
会話の応答として適切なものを選択することができる		12.8%	51.5%	28.8%	6.5%	0.4%	0.0%
大問2 (3) <リスニング問題・質問に対する適切な答えを選ぶ>							
選択肢	選択肢の分析						
ア Sorry, I didn't bring mine.	断る際に、Sorry を用いて謝ることができるという知識はある。しかし、その後の理由までは理解できず、didn't につられて選んでいると考えられる。						
イ Sorry, I have to study.	正答						
ウ No, I didn't see that.	質問が Do you ~? の疑問文のため、No を使って断ろうとしたと考えられる。さらに、see 「見る」という動詞から movie と関連があると予想したため、誤答の選択率が最も高かったと考えられる。						
エ No, I don't like sports.	No を使って断ろうとしているが、sports という単語を選んでいることから、質問の内容を理解できていないと考えられる。						

○ G - P 分析



- 5層の正答率は80%を超える一方、4層で約60%、3層で約45%、2層で約35%、1層で30%弱の正答率であり、学力により正答率の違いが著しい問題である。
- 類型3 (ウ) の選択率は、1層～3層の間で大きな変化はなく、一定の割合の生徒が誤答を選択している。一方で4層～5層では、誤答選択率が急激に下がっている。
- 類型1 (ア)、類型3 (ウ) の選択率は、1層～5層になるに従って下がっている。一方で、類型4 (エ) の選択率は、1層～5層で大きな変化はない。

○ 指導上の改善ポイント

最も多かった誤答はウの No, I didn't see that. であった。Do you ~? で始まる質問には、必ず Yes / No で答えると捉えている生徒が多いと考えられる。また、質問文の中の movie (映画) という単語が耳に残ったため、see (見る) が含まれている (ウ) を選択した可能性が考えられる。これらのことから、次のような改善策が考えられる。

- ⇒ (1) 教科書を用いて、言語の使用場面や言語の動きに留意しながら会話活動を意図的に多くに取り入れ、積極的に聞く態度を身に付けさせる。
- ⇒ (2) 日常的にまとまった英文を聞かせ、Q-Aなどの対話的活動を取り入れる。生徒にとって興味・関心が高い内容やタイムリーな題材を用いて、まとまった英文意味を聞いて理解できるようにさせる練習を行う。

日頃の積み重ねから「まとまった英文を聞く力」や「英語で答える力」を育成する活動例

(1) 教科書を使用した対話的・主体的な活動例

教科書に載っている言語の使用場面に注目している題材 (買い物、道案内、空港のシーンなど) を利用して、ペアやグループでオリジナルの対話文を作成させ (writing 活動)、インプット活動を行う。その後、パフォーマンス・テストの際に発表を行わせ (アウトプット)、クラス全体に聞かせる。⇒生徒の代表に、聞いた内容の要約を英語で言わせる。
※ 要約が言えるように、全員が集中して聞くよう事前に伝えておく。(生徒の実態により、要約は日本語でもよい。)

<例> Tomoko wanted to buy a blue cap. But there was not a good size for her. So she bought a red cap.

発展

どんな生徒でも、課題解決に対して意欲や興味をもつような課題を設定する。



(2) 教科書以外の対話的・主体的な活動例

① Short Speech

毎時間継続的に、授業の導入時に Warm-up として、生徒が順番に1分程度のスピーチ発表する時間を設定する。

⇒ 聞いていた生徒がその内容についての質問し、スピーチした生徒が答える活動。

※ when, where, what, how, why, who など、疑問文のやりとりを意図的に行わせる。

<例> S1: I'll talk about my weekend. I went shopping with my family.

We had lunch at a restaurant. We had a good time.

S2: What did you buy?

S1: I bought a pair of shoes.

② Story Telling (物語を聞かせる) や Picture Telling (絵本を読み聞かせる)

⇒ 2~4人のグループごとに、聞いた話の概要について日本語で確認させ、発表させることで定着を見取る。

③ President Obama's Speech (2016年5月に広島島の原爆ドーム前でいったスピーチ) をビデオで見せて聞かせる。

⇒ 要約した英文を配り、簡単な感想を英語で言わせたり、書かせたりする。

<例> I was moved by his speech because he said about world peace. / I was happy that he came to Japan. / I think that it was important for us to think about the future.

小中連携

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 11-C

【読むこと】

4 次の英文 (1) ~ (5) の () に入れる単語として最も適切なものを、下のア~エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

(3) A: () needs a pen?

B: I do.

- ア What
- イ How
- ウ Who
- エ Where

○ 調査問題の趣旨・内容

「会話文の質問が完成するように適切なものを選択する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 英文が完成するように、() に当てはまる正しい英語（疑問詞）を選ぶ。

【作成の趣旨】 この問題は、AとBの対話文において、Bが「私が必要としています。」(I do.) と回答している英文を読んで理解した上で、Aが「誰がペンを必要としているのですか」という質問をするために適切な疑問詞を選択できるかどうかを見る問題である。この問題のポイントは、①疑問詞の意味を理解しているということ、②疑問詞の who を主語にした、助動詞を伴わない疑問文の構造を理解していること、③I do. の do が need の代わりに使用されているの理解していることの3点である。

○ 誤答分析

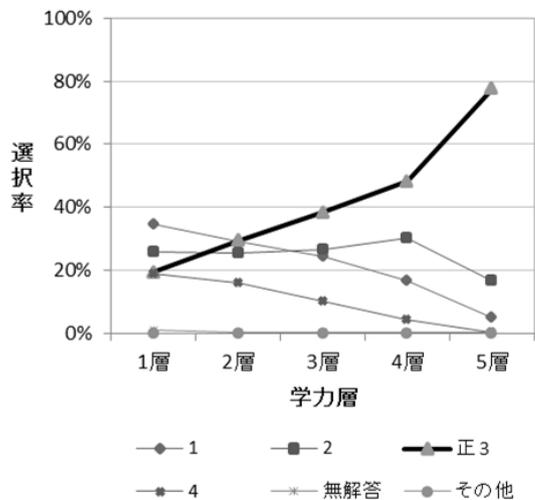
出題のねらい	解答類型	1	2	③正答 ウを選択	4	無解答	その他
適切な疑問詞を選択することができる	アを選択	21.6%	25.0%	43.2%	9.8%	0.5%	0.0%

誤答を選択する生徒には段階に応じて次のようなことが考えられる。

- ・疑問詞の意味が理解できていない。
- ・BのI do.のdoがneedの代用であるということや、対話のつながりを理解できていない。
- ・疑問詞のwhoを主語にした疑問文の構造が理解できていない。

選択肢	選択肢の分析
ア	whatの意味が理解できていない。もしくは、答えのdoがneedの代用ということや、対話のつながりを理解せず、whatを選択している。また、疑問詞を主語にした疑問文の文構造が理解できていない。
イ	howの意味が理解できていない。もしくは、答えのdoがneedの代用ということや、対話のつながりを理解せず、howを選択している。疑問詞を主語にした疑問文の文構造が理解できていない。
ウ	正答
エ	whereの意味が理解できていない。もしくは、答えのdoがneedの代用ということや、対話のつながりを理解せず、whereを選択している。疑問詞を主語にした疑問文の文構造が理解できていない。

○ G - P 分析



- 5層の生徒は正答率がおおよそ80%と高くなっているが、1～3層の生徒では正答率40%以下と低くなっている。4層の生徒でも50%程度の正答率である。
- 1層の生徒はWhatを最も多くの生徒が選択し、その後5層まで減少していく。一方、Howを選択する生徒は1層から4層まで増加している。
- 1～2層の生徒は質問と答えI do.の結びつきと、疑問詞が主語になる疑問文の文構造が理解できていないため、WhatやHowを選択する傾向にある。Whoはbe動詞や助動詞が続く印象が強いため選択されなかったと考えられる。また、I do.が場所でないということは分かったため、Whereを選択する生徒は少なかったと考えられる。
- 4～5層の生徒は、doがneedの代用だということに気づき、正答を選択する生徒が増加していると考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

この問題の正答率が低かった理由として、Aの質問が「主格の疑問詞を用いた疑問文」であるということや、その質問に対するBの回答がI need.ではなく、I do.という代動詞を用いたものであることが考えられる。これらは教科書に取り上げられている表現であるものの、会話の中に含まれている程度で、その表現が重要表現としてレッスンが構成されていない場合もある。従って、授業においても簡単な説明で終わってしまい、繰り返し指導等が行われず、生徒への定着が十分に行われていない可能性がある。しかしながら、このような表現は、高校入試や外部検定試験等においては、頻繁に出題される傾向が見られる。そこで、見落とされがちな重要表現などをまとめたリストを作成し、繰り返し定着を図ることで、生徒への十分な定着を図りたい。

作成したリストを含め、**生徒が身につけるべき資質・能力を明らかにしておく**。それらの資質・能力については、**学年や教科を横断する視点から、学校として定め、教員間で共有できるようにしておく**。



アクティブ・ラーニングの視点

【見落とされがちな重要表現などをまとめたリストの例】

見落とされがちな重要表現

lesson	Japanese	English
2-3	彼は中国語を話すことができます。	He is able to speak Chinese.
3 read	私と一緒にそこに行きましょう。	Why don't you go there with me?
3 read	私はアメリカに訪れてみたいです。	I'd like to visit America.
4-2	誰がこの部屋を掃除したのですか？	Who cleaned this room?
5-1	なぜあなたはそんなに怒っているのですか？	What made you so angry?
7-2	この本は私には難しすぎて読めません。	This book is too difficult for me to read.
7 read	私はとても忙しくて、宿題ができませんでした。	I was so busy that I couldn't do my homework.

○ 活用の方法

- ・ ペアで相互に、英語をインプットする活動や、英語を読んで日本語で意味を答える活動を行う。
- ・ 単元や学期のまとめの際に、確認テストなどを実施し、定着の見取りを行う。定着が十分でないものについては、全体で繰り返し指導を行う。